

緩和ケア センターとは？

2023年12月1日

宮崎大学医学部附属病院 緩和ケアセンター

緩和ケア認定看護師 太田原 優



緩和ケアとは

「緩和ケアとは

病気に伴う心と体の痛みを和らげること」



診断された時からがん治療と同時に行われることが求められています。
緩和ケアの導入により治療ができないということではありません。

がん患者さんのつらさ

気持ちのこと

- ・不安で眠れない
- ・何もやる気が起きない

社会的なこと

- ・働きたいけど、働けない
- ・子どもの世話ができない

治療によって生じること

- ・しびれる
- ・食べられない
- ・外見が変わる

人生に関すること

- ・生きる意味
- ・将来への不安
- ・家族に迷惑をかけたくない

体のこと

- ・痛い
- ・息苦しい
- ・だるい

緩和ケアにより期待されること

痛みや身体のだらさによる気力や体力の消耗を防ぎ、
治療に取り組む力がわいてきます。
だらさを和らげることで、治療を受けやすくします。



自分らしく生活できるよう、つらい症状を和らげながら、
どのように過ごすかを一緒に考えてサポートします。

緩和ケアセンター

入院・外来の患者さんやご家族を対象に、がんなどの病気に伴う痛みや倦怠感(だるさ)などの身体の苦痛(症状)や、不安などの精神症状を和らげるために、主治医や病棟スタッフと協力してその治療やサポートを行います。

メンバー構成

医師

体のつらさの緩和を専門とする医師、気持ちのつらさの緩和を専門とする医師が対応します

ソーシャルワーカー

経済的な問題や退院・転院にむけた不安に対応します

リハビリ専門職

無理のない動きや生活の工夫をアドバイスします

管理栄養士

食欲がない時など、食事の調整・工夫をアドバイスします

患者さん・ご家族



センター長

身体症状
担当医師

精神症状
担当医師

ソーシャル
ワーカー

リハビリ
専門職

管理栄養士

がん専門
薬剤師

緩和ケア
認定看護師

看護師

体や心のつらさを和らげ、生活を支えます

がん専門薬剤師

薬の副作用への不安を和らげ、飲み方などをアドバイスします

このような症状や問題があったら . . .



痛み、痺れ・吐気・息苦しさ・身の置き所のないだるさ
などの身体のつらい症状への対応

不安、不眠、気持ちの落ち込み・落ち着かない気持ち・やり場のない怒り
などの精神症状への対応とこころのケア

日常生活に関する相談：生活において不便さや気がかりなことについて

医療費や社会福祉制度についての相談：療養生活や介護に関する不安、心配事、
社会的支援について



お薬の相談：薬の使い方の説明や副作用対策について

お食事の相談：食事形態や食欲不振
などに関する対策について

(家族)
患者さんにどのように接したら
いいかわからない、患者さんの
病状や今後のことが不安な気持ち
などに対する家族の悩み



緩和ケアの活動内容

- 痛みや吐き気、呼吸困難など、からだの不快な症状の緩和
- こころのサポート
- がん看護に関する専門資格を有する看護師等による定期的カウンセリング
- 症状の緩和に係る薬剤の相談
- 療養中の食事・栄養に関する相談
- 制度利用のお手伝い（医療保険・介護保険・福祉制度など）
- 療養の場の選択（在宅・ホスピス・緩和ケア病棟・介護施設など）
- 今後のこと（治療・生活全般など）を決めていくサポート
- がん相談支援室（がん相談支援センター）と連携した患者や家族の支援
- 大切な方を亡くされた方のサポート

多職種チームで活動



日々の回診
多職種カンファレンス



症例検討会



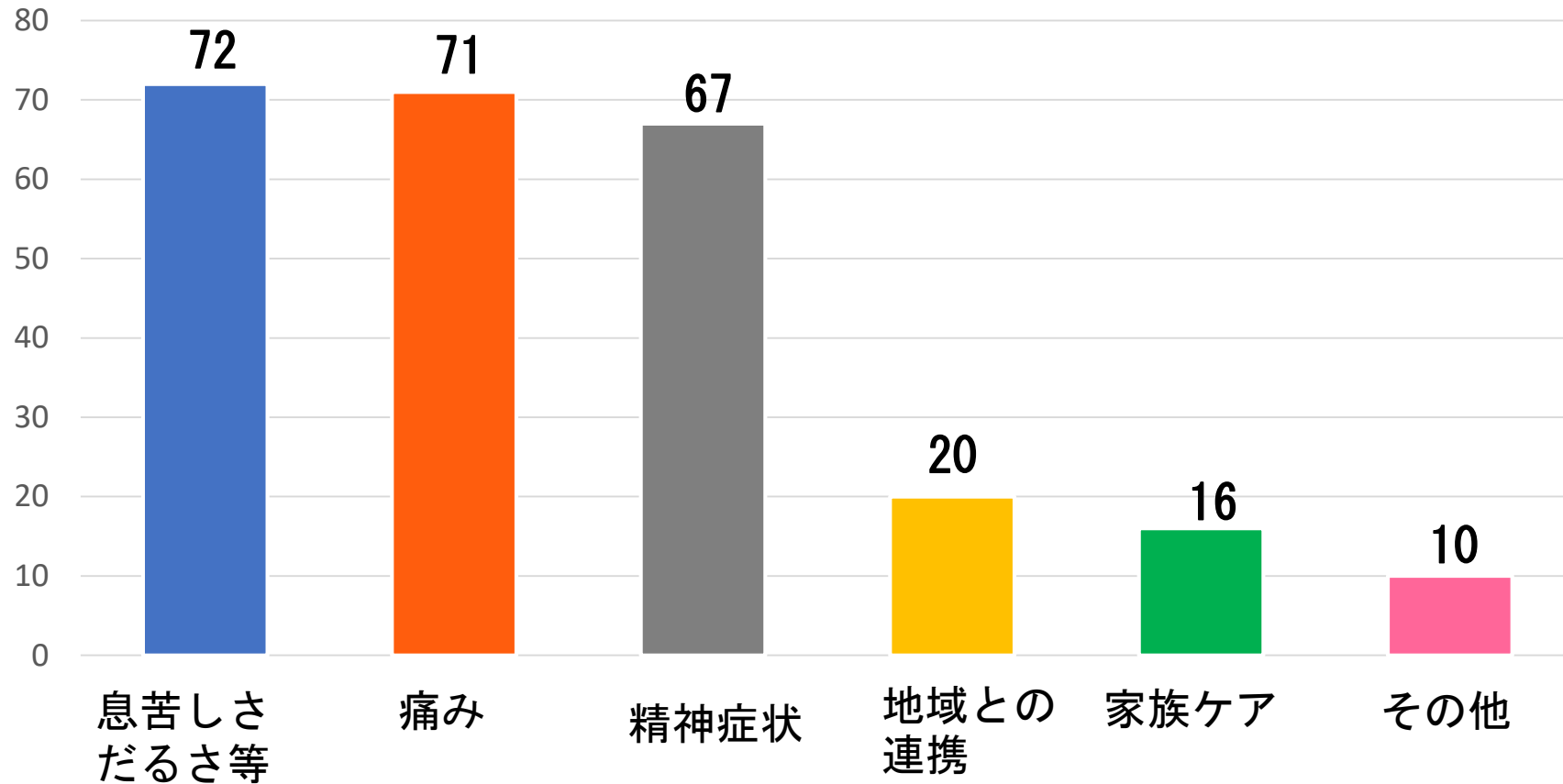
緩和ケアセンター
の運営に関する
カンファレス

緩和ケア連携・協力
カンファレンス

緩和ケア研修会の
定期的な開催

2022年度実績

緩和ケアチーム依頼患者さんの症状別件数

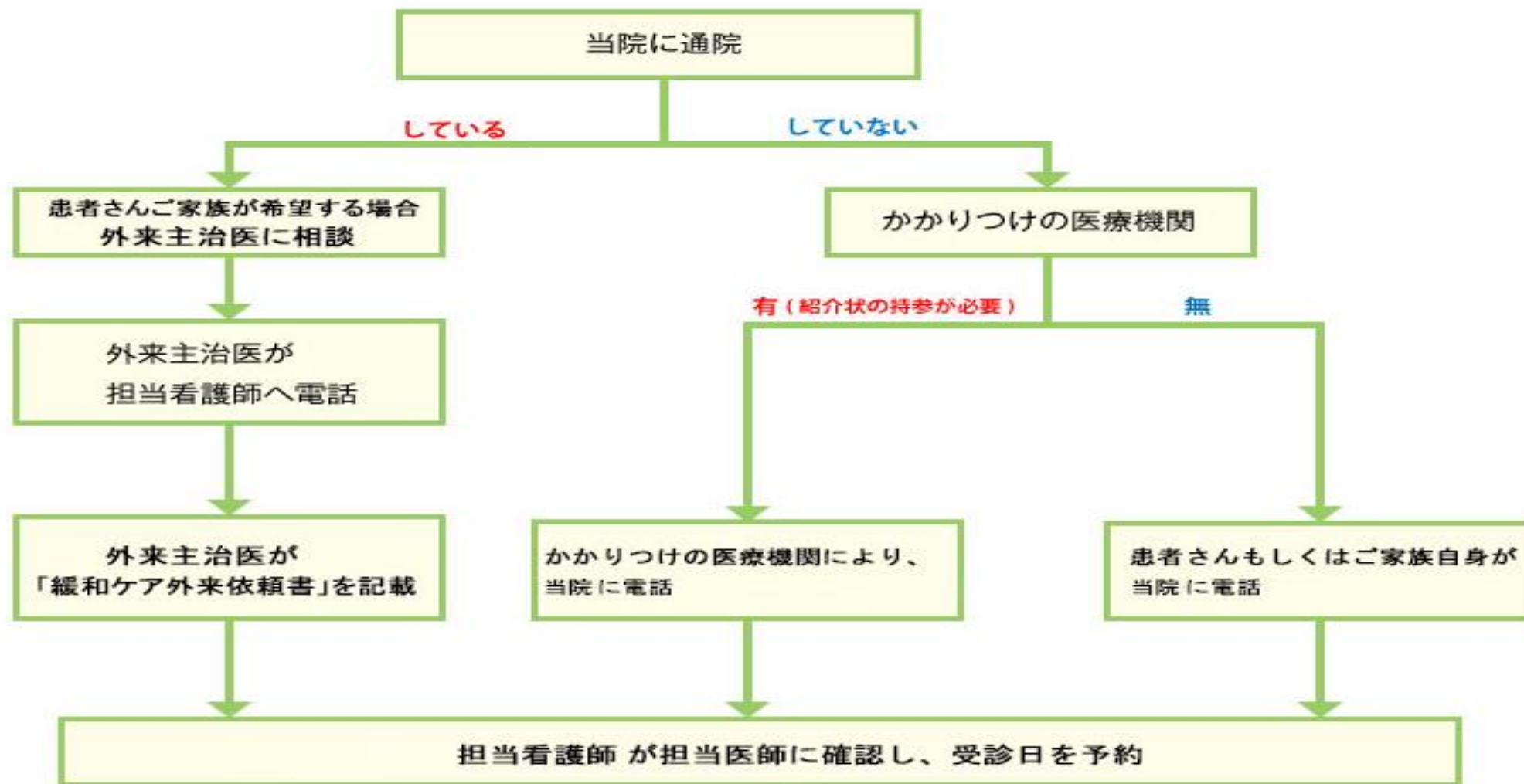


緩和ケア外来

がんと診断された患者さんの苦痛症状や精神的な悩みについて、苦痛を和らげ患者さん・ご家族の『生活の質(QOL)』の向上を図るための外来です。

対象：外来通院しているがんと診断されている患者さん・ご家族。
当院に入院中の場合は、緩和ケアチームが対応いたします。
主治医にご相談ください。

緩和ケア外来の受診の流れ



緩和ケア認定看護師の主な活動内容

- 緩和ケアチーム介入の調整
- 外来・病棟との連携
- 患者さん・ご家族への直接的ケア
- 看護スタッフからの相談
- 多職種との連携（患者支援センターなど）
- 緩和ケア・がん看護の教育
- 研修会・勉強会の開催



緩和ケア担当看護師へ相談する方法

- ・主治医の先生に相談する
- ・外来受診時、看護師に相談する
- ・入院中の場合は、病棟看護師に相談する



主治医・看護師から
緩和ケア担当看護師
に連絡



緩和ケア担当
看護師が患者さん
と面談



緩和ケアチームが大切にしていること

専門性を持った医師・看護師・薬剤師・管理栄養士などの多職種が、それぞれの視点から積極的に意見を出し合い、患者さん・ご家族の苦痛や不安などを和らげるために、全力を尽くすことです。




緩和ケアセンターにご相談ください

富崎大学医学部附属病院には、がんの患者さんが抱える病気・治療に伴う身体の症状、心のつらさや不安、ご家族の心配を少しでも和らげるための支援を行う専門家チームがあります。がんと診断された時からいつでもサポートを受けることができます。あなたのつらい症状をお聞かせ下さい。

ご相談は患者さん本人でも、ご家族の方でもお受けいたします。

例えばこんな時にご相談ください

- 心のつらさ**
思えない、不安、緊張、気分が落ち込み、家族のストレスなど
- 体のつらさ**
痛み、しびれ、風邪、吐き気、だるさなど
- 生活に関わる心配事**
医療費や生活費について、家族の悩み、仕事の悩み、生活の場の変化についてなど



症状緩和とサポートチームのメンバー

Support Team Member

- 身体担当医師**
体のつらい症状を和らげることを担当
- 精神担当医師**
心のつらい症状を和らげることを担当
- 看護師**
日常生活や治療を含めたがん療養の方法や注意点などの相談やカウンセリングを担当
- 薬剤師**
患者さんへの薬の説明のほか、医療や看護への専門的なアドバイスを担当
- 管理栄養士**
食事や栄養に関する相談のほか、悪病や看護への専門的なアドバイスを担当
- ソーシャルワーカー**
医療費や制度、主治医や退院後の生活環境の確保、社会生活のサポートを担当

相談をご希望の方は

- 1 担当医師や看護師にお声をかけてください。
- 2 **TEL. 0985-85-1510** (内線)
(平日 9:00~17:00)
緩和ケア担当看護師まで、お気軽にお電話下さい。

富崎大学医学部附属病院 緩和ケアセンター

症状緩和とサポートチームのご案内

痛み や 不安 などを我慢していませんか？



あなたがつらさが改善されるよう一緒に考え、お手伝い致します。

※当院は、がん対策推進計画「がんを診断された方から緩和ケア」に取り組んでいます。

富崎大学医学部附属病院 緩和ケアセンター

どこでも受けられる「緩和ケア」

「緩和ケア」は治療中の病院でも、緩和ケア病棟でも、ご自宅でも受けられます。

がん診療連携拠点病院は全国に434施設、緩和ケア病棟がある病院は、全国に382施設あります(2017年12月時点)。がん診療連携拠点病院には、緩和ケアの専門チームがありますので、緩和ケアが必要になったら、まず緩和ケアチームのスタッフに相談しましょう。また、西新くのがん相談支援センター、または自治体の相談窓口などもご利用できます。

CASE1 治療中の病院で

「治療医」のケアを受ける・「緩和ケアチーム」のケアを受ける

がんの必要を受けている途中で、緩和ケアを一緒に受けられることができます。



CASE2 「緩和ケア病棟」のある施設で

「緩和ケア」を受ける

病院が新しく開いた施設で緩和ケアを受けられることができます。介護するご家族の生活をこの目的で、チャイルドケアやホームステイ利用も行うことができます。



CASE3 自宅で

往診や訪問看護を受けながら「緩和ケア」を受ける

専門スタッフが医師の連携のもと、必要に応じて訪問看護の介助、入浴やシッター等の介助、食事や薬の管理、移動、医療費の確保などもおこなうことができます。



緩和ケアは「がんの治療」と一緒に始めます

「緩和ケア」という言葉に、どのようなイメージをお持ちですか？
「がん治療ができなくなった方への医療」「がんの終末期に受けるもの」と思っている方も、まだまだ多いようです。


緩和ケアは、がん治療の初期段階から、がん治療と一緒に受けるケアです。緩和ケアを受けると、こんなメリットがあります。

- がん治療中に経験する苦痛や副作用(吐き気、嘔吐、痛み、倦怠感など)が緩和され、がん治療に専念できるようになります。
- 患者さんやご家族の不安や心配など、心のつらさをやわらげるために緩和ケアのスタッフがサポートいたします。
- がんと診断されたことによる社会的差別(数値・検査結果など)への対応について、スタッフが一緒に考えます。

緩和ケアは、がんと共存することを可能にします。

緩和ケアとがん治療のチャート

がんの治療には、生きる(生活費、資金性)、病を治す(がん治療)など、複数の目的があり、治療法はがんの種類や病期によって異なります。



POINT1	POINT2	POINT3
がんを診断されたとき、がんの種類や病期によって、治療法が異なります。	がん治療中に、がん治療と緩和ケアを同時に受けることができます。	緩和ケアは、がん治療だけでなく、がん治療が終わった後も受けられます。

がんの治療法には、大きく分けて3つのものがあります。※1つの治療法だけでなく、2つ以上の治療法を組み合わせることもあります。

手術療法

特徴

- がんの組織を切除し、腫瘍を切除します。
- もし、がんを完全に取り除くことができれば、根治可能な場合があります。

デメリット

- 腫瘍の切除し跡が残る場合があります。
- 切除する部位が大きければ、身体の種類や機能が失われることがあります。

放射線療法

特徴

- がんの組織に放射線(エックス線など)を照射することで、がん細胞の染色体にダメージを与えたり、がん細胞を死滅させた、ダメージを与えたりします。
- 手術と違って、手術に比べて、痛みを失うことなく、身体への負担が小さい治療法です。

デメリット

- 放射線治療中には、治療部位にむくみや腫れが起これることがあります。
- 放射線が終了してから数か月〜数年後、放射線が当たった部分の腫瘍が再発することがありますが、放射線が必要なのは状況が生じることは稀です。

薬物療法(抗がん剤など)

特徴

- 薬を飲んで、がん細胞を破壊したり、腫瘍を減らしたりします。
- 手術療法や放射線療法と異なり、より広い範囲に効果が期待できます(全身療法)。すでに転移がある場合や、手術後の再発予防などに使われます。

デメリット

- 正常な細胞にも影響を与えてしまうため、副作用を生じる場合があります。
- がんの種類によっては、十分な効果が期待できない場合があります。
- 抗がん剤の中には嘔吐などの副作用があります。